

医学部

研究
事業
紹介

5

introduction

医学部附属病院が中四国地区初の承認を受けた
先進医療「人工括約筋を用いた尿失禁手術」

前立腺癌の外科治療で起こりうる「術後尿失禁」。医学部附属病院では、その有効治療となる「人工括約筋(AMS800)を用いた尿失禁手術」が、先進医療として中四国で初めて認定されました。米国で治療法を修得された、泌尿器科の安本博晃講師に詳しいお話をうかがってきました。

前立腺癌の早期治療で起こりうる
術後の尿失禁に対する唯一の治療法

高齢化、食生活の欧米化等の要因に加えて、診断法の進歩もあり、「早期前立腺癌」と診断される患者が増加傾向にあります。この早期症例に対する標準的な外科的治療が、前立腺全摘出手術ですが、この治療による「術後尿失禁」が大きな課題でした。医療技術の進んだ現在では、術後1年以内に9割の患者の排尿機能が回復しますが、紙おむつを必要とする重度の尿失禁に苦しむ患者が、1〜3%程度生じるとされています。

「比較的安全で、患者さんの満足度も高い治療法なので、今後広く普及させたい」と意欲を語る安本講師。

附属病院泌尿器科講師
安本博晃



2009年米国カリフォルニア州の研修施設にて行われたAMS800人工尿道括約筋手術研修会の様子(中央 安本医師)



人工括約筋（AMS800）の写真。「非常にシンプルな構造ゆえに信頼性も高く、術後 90%の患者さんが治療に満足しているというデータもあります」（安本講師）。

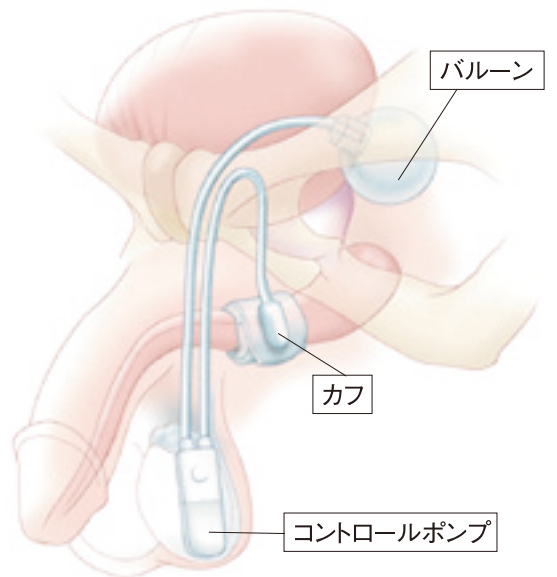


この問題を解決する治療法として、米国では一般的な「人工括約筋を用いた尿失禁手術」があり、平成13年には、島根大学医学部でも、井川幹夫教授（泌尿器科・同病院副院長）がいち早く手がけ、その有用性を報告してきた実績があります。しかし、当時は患者の医療負担が高額であり、保険診療として認められるほどには治療実績が伸びなかったことから、この治療が有効であるにもかかわらず、普及にいたりませんでした。そして、このたび医学部附属病院が先進医療施設に承認されたことで、同治療に対する期待も高まってきました。

**先進医療施設承認の追い風で実績を上げ
症状に苦しむ人々が治療しやすい環境を**

医学部泌尿器科の安本博晃講師は、こうした状況の平成21年、井川教授のアドバイスのもと、米国専門機関での研修で「人工括約筋（AMS800）を用いた尿失禁手術」の技術を修得されました。

「この治療は歴史も長く、今では機器も確立されており、信頼性も申し分ないので、今後は症例を多く手がけて、さらに実績を積み上げ、保険治療になるよう尽力していきたい。現在、中四国でこの治療が受けられるのは



人工括約筋は尿道の周りにシリコン製のカフを巻きつけ、その中に液体を充填することで失禁を保ちます。排尿の際にカフ内の液体を抜くためのコントロールポンプは陰嚢内に、液体を貯蔵するバルーンは下腹部内に埋め込みます。

当病院のみですが、制度の問題が解決すれば、いずれはこの病院でも受けられる治療になっていくはず」（安本講師）。

本年度は先進医療に対する費用助成制度の適応で、人工括約筋（AMS800）費用分が助成されるとのこと。

安本講師は、「費用面で悩む患者さんの大きな助けになるだけでなく、この機会に治療の実績を積みむことで、それだけ保険治療への道も近くなる」と締め括ってくれました。